

3.7 脱原発集会実行委員会通信

No.5

2026年3月12日

発行：3.7 脱原発全国集会実行委員会

3.7の全国集会は、ご苦労様でした。当日は、九州から北海道まで全国各地から8500人が集まり、ステージやブース、そしてパレードなどで「フクシマを忘れない」「脱原発」などを訴えてきました。後日、新聞報道で集会の様子が報道されましたのでお知らせいたします。まだまだ様々な媒体で集会を取り上げていると思います。もしお手元にありますならば、お送りください。

東日本
大震災
15年

代々木公園で全国集会



集会で脱原発を訴える大勢の参加者＝7日、東京都渋谷区の代々木公園で

東京電力福島第一原発事故から15年になるのを前に、脱原発を訴えるイベント「とめよう原発3・7全国集会」が7日、東京都渋谷区の代々木公園であった。全国各地から参加した

脱原発思い一つに

3/8 東京

8500人(主催者発表)が登壇者のスピーチに耳を傾け、原発のない社会や再エネの推進に向けて思いを一つにした。毎年、代々木公園で集会を開いてきた「さよなら原発1000万人アクション」実行委員会(以下「団体」)が15年を迎えるにあたって実行委をつくり、幅広く呼びかけて実施した。メインスピーチでは盛岡大の長谷川公一学長が「原発推進政策が年々、露骨に進められるようになってきた。どこかで再び事故が起きるリスクは少なくない」と指摘。原発事故被害者団体連絡会の共同代表、武藤類子さんは「私たちに核、原発の時代を終わらせ、平和な時代をつくる力があることを思い出しまし

よ」と呼びかけた。その後、参加者は渋谷と原宿の二手に分かれ、パレードへ。「原発なくして未来を守る」と「再エネ転換省エネ推進」とシュプレヒコールを上げて行進した。福島県いわき市から参加した早川のり子さん(74)は「地元の人間として事故を忘れるわけにはいかない。原発の安全に絶対はなく、再稼働は怖い」と話した。(浜崎陽介)

3/8 赤旗

とめよう原発 東京で8500人集会



集会でプラカードを掲げてアピールする参加者＝7日、東京・代々木公園

東日本大震災・東京電力 実行委員会、原発をなくす福島第一原発事故から間もなく15年の7日、「とめよう原発」全国集会が東京・代々木公園で開かれ、約8500人(主催者発表)が参加した。全国各地から参加した約8500人(主催者発表)が「原発いらねえ、再稼働反対」「原発ゼロの社会をつくろう」とシュプレヒコールを上げながら渋谷、原宿の街をパレードしました。さよなら原発1000万人アクション

登壇者は、高市早苗首相について「戦争、原発事故への反省がない」と批判。「さよなら原発」だけでなく、いろんな人たちが手をつないで運動を広げたい」と呼びかけました。盛岡大学の長谷川公一学長は、トランプ米政権が国際秩序を破壊し無法な戦争を繰り返す中、無人機攻撃が原発への新たな脅威になっていると強調しました。原発事故被害者団体連絡会の武藤類子共同代表が福島県の現状を語り、「被害者の暮らし再建とかけ離れた復興は砂上の楼閣だ」と批判。リレートークで新潟の東電柏崎刈羽原発再稼働の是非を問う県民投票請求代表者、佐々木寛和さんは「声を上げられる若者を増やし、対話の輪、民主的な政治を新潟から」と発言し、拍手に包まれました。参加した福島県須賀川市の堂脇和秀さん(56)は「政府は原発再稼働で福島県民の思いを踏みにじっている」と語りました。日本共産党の小池晃書記局長らが参加しました。